工業簿記

【第6回】労務費の計算

経済学部 山根陽一

- ・ 前回は、材料費の計算について、予定価格(材料消費 価格差異)と棚卸減耗(製造間接費)、材料副費(材料 副費差異)の説明と皆さんに数字を埋めてもらい、勘定 連絡図を作成してもらいました。
- 作成してもらった問題は、Webにアップしています。トレーニングの問題に飽きたら、40~50題は類似の問題があるので使用してみてください。
- ※ 問題が正しく作成されいるかは保証できかねます。

前回の振り返り

- ・ 労務費の計算については、第2回でこんな解説をしました。
- 4. 従業員に賃金30,000円を現金で支払った。

賃金

30,000

現金

30,000

- ・ 材料費でも単価と数量があったように、この賃金30,000 円にも賃率と時間があるのです。
- 例えば、1,000円/h×30hのように。

固定給かもしれないけどね・・・

労務費の計算

K

- あと、いろんな人が働いていたら、例えば1ヶ月の賃金が 1,000,000円かかったとすると、その内訳は...
 - 1,000 \square /h × 57h = 57,000
 - $900 \square / h \times 40 h = 36,000$
 - 1,200 \square /h × 60h = 72,000
 - $2,000 \square / h \times 100 h = 200,000$
 - 150,000 \square (168h) + (2,000 \square $/h \times 30h) = 210,000$ \square
 - 350,000円 (168h) + (2,500円/h × 30h) = 425,000円
- ・かもしれない。

- この場合、賃率ってどうやって出しますか?
- 6人で653時間です。
- 1,000,000円/653時間 = 1,531円/h
- どうやら賃率も月末にならないとわかりそうにありません。
- ・ 消費の計算、どうしますか?
- 予定しかないですね。

- 予定賃率を使用します。
- 予定賃率を1,500円/hとします。
- ・直接工が直接作業を20h行った。
 - ・ 消費の仕訳

仕掛品

30,000

賃金

30,000

・ 支払の仕訳 ※実際の賃率は1,531円/hだった。

賃金

30,620

現金

30,620

労務費の計算

- ・ズレてます。
- どうしますか?
- ・差異勘定で処理します。

賃率差異 620

賃金

620

- ※賃金が予定より620円多くかかったという意味(不利差異)
- もちろん差異勘定は月末に売上原価に振替えます。

売上原価 620

賃率差異

620

※予定で計算した売上原価より620円高かったという意味

労務費の計算

- ということで、予定賃率を使用した場合の処理はOKですね。
- ところで、みなさんはアルバイトをしたときに給料はいつ 支払われるでしょうか?
- ちなみに私はこれまで10日払い、20日払い、25日払いと 働いた場所によって区々でした。
- あと、賃金の計算期間はいつからいつまででしょうか?
- 9/21~10/20、9/26~10/25、10/1~10/31など、これも場所によって区々だと思います。

B

- ちなみに、原価計算期間って、いつからいつまででしたっけ?
- そう、10/1~10/31です。
- ・賃金の支払日や賃金計算の期間が、10/1~10/31と異なる場合、計算が少しややこしくなります。

例えば、

賃金計算期間	支払日	金額(実際)
8/21~9/20	9/25	1,500円/h×120h
9/21~10/20	10/25	1,700円/h×150h
10/21~11/20	11/25	1,600円/h×140h

• 補足資料

8/21~8/31 1,600円/h×40h 9/21~9/30 1,700円/h×20h

10/21~10/31 1,500円/h×30h

• 原価計算期間(9/1~9/30、10/1~10/31)の賃金はいくらですか?

労務費の計算

賃金計算期間	支払日	賃金(実際)
8/21~9/20	9/25	180,000円
9/21~10/20	10/25	255,000円
$10/21 \sim 11/20$	11/25	244,000円

8/21~8/31 64,000円

9/21~9/30 34,000円

10/21~10/31 45,000円

• 原価計算期間(9/1~9/30、10/1~10/31)の賃金はいくらですか?

労務費の計算

• 9/1~9/30

$$180,000 - 64,000 + 34,000 = 150,000$$
 $8/21\sim9/20 - 8/21\sim8/31 + 9/21\sim9/30$ 当月支払 - 前月未払 + 当月未払 = 当月消費額

• $10/1 \sim 10/31$

$$255,000 - 34,000 + 45,000 = 266,000$$

 $9/21\sim10/20 - 9/21\sim9/31 + 10/21\sim10/31$
当月支払 - 前月未払 + 当月未払 = 当月消費額

- 仕訳をしてみるとどうなるでしょう。
- やっていることは、商業簿記の見越し・繰延べです。

労務費の計算

• 8/31

8月未払額の計上

 $(8/21 \sim 8/31)$

賃金

64,000

未払賃金

64,000

• 9/1

8月未払額の再振替仕訳 (8/21~8/31)

未払賃金

64,000

賃金

64,000

• 9/25

9月支払賃金

 $(8/21 \sim 9/20)$

賃金

180,000

現金

180,000

• 9/30 9月未払額の計上

 $(9/21 \sim 9/30)$

賃金

34,000

未払賃金

34,000

労務費の計算

• 10月分は、

9月未払額の再振替仕訳 (9/21~9/30) • 10/1

未払賃金

34,000

賃金

34,000

• 10/25 10月支払賃金

 $(9/21 \sim 10/20)$

賃金

255,000

現金

255,000

• 10/31

10月未払額の計上

 $(10/21 \sim 10/31)$

賃金

45,000

未払賃金

45,000

労務費の計算

1. 10/1 9月分(9/21~9/31)の未払賃金34,000円の再振替仕訳を行った。

未払賃金

34,000

賃金

34,000

2. 10/? 直接工の直接作業時間は160hであった。予定 賃率は1,600円/hを使用している。

仕掛品

256,000

賃金

256,000

仕訳のまとめ

3. 10/25 賃金255,000円を現金で支払った。

賃金

255,000

現金

255,000

4. 10/31 10月分(10/21~10/31)の未払賃金45,000円を計上した。

賃金

45,000

未払賃金

45,000

5. 10/31 予定消費額と実際消費額の差異を処理した。

賃率差異

10,000

賃金

10,000

仕訳のまとめ

• では、今日も自ら数字を埋めて、仕訳と勘定連絡図を作成してみましょう。

本日の作業